

בְּרֵאשִׁית



創世記 2 章

4 節後半— 5 節

ベレーシート
בְּרֵאשִׁית 創世記

地にはまだ、野の灌木もなく、
野の草も生えていなかった。

神である【主】が、
地の上に雨を降らせていなかったからである。

また、大地を耕す人もまだいなかった。

(創世記 2 章 5 節)

この学びは「新改訳 2017」を基本としています。



原文で味わう創世記 2 章の第一回目です。本日は二つを学びます。

創世記 1 章～3 章には、二つの創造の物語が記されています。

一つ目の創造の記事は、1 章 1 節～2 章 4 節前半まで。

2 章 4 節後半からもう一つの創造の記事が結びついています。

連結されていますが、異なる二つの創造の話です。

創世記 2 章 4 節

これは、天と地が創造されたときの経緯である。

神である【主】が、地と天を造られたときのこと。

エレッ	エローヒーム	アドナイ	アソート	ベヨーム
אֶרֶץ	אֱלֹהִים	יְהוָה	עָשׂוֹת	בַּיּוֹם
地	神である	【主】	造られた	日に
	主なる神		造ろうとしたとき	

ヴェシャーマーイム
וַשְׁמַיִם
天と

4 節は前半と後半に分けられます。後半は、神である【主】が

地と天を天と地を造られた日に、と始まります。

— 1 章 1 節～2 章 4 節前半と 2 章 4 節後半以降の相違と共通点—

●相違点

① 1章は、「創造した^{バーラー}בָּרָא」と「造った^{アーサー}עָשָׂה」です。

2章4節後半から「造った^{アーサー}עָשָׂה」と「形造る^{ヤーツアル}יָצַר」です。

^{バーラー}בָּרָאがなくなります。

② 1章は「天と地」ですが、後半は「地と天」です。

天については一切書かれず、地の記述になります。

③ 1章は「神^{エロ-ヒーム}אֱלֹהִים」一般名詞

2章後半～3章すべてが「神である【主】」となり、

神^{エロ-ヒーム}אֱלֹהִים (一般名詞) 【主】יְהוָה (固有名詞) です。

● 共通点

^{ハーアーダーム}אָדָםが中心になっています。

② 1章では「人」は地を支配するようにとあります。

2章4節後半では、人の地を耕し守る務めが浮彫にされます。

ただ地を支配するのではなく、耕し守る務めが出てきます。

これは「王なる祭司」としての務めです。

③ 1章では「光と闇」「昼と夜」を分けることが強調されます。

2章4節後半は「いのちと死」という概念が出てきます。

分けるよりも異なる範疇で「いのちと死」が扱われます。

同じ創造の物語ですが、違った観点から創造の物語が展開します。

エロ-ヒーム アドナイ
יהוה אלהים
「神である【主】」

神の固有名詞である神聖四文字 יהוה^{アドナーイ}をユダヤ人は אֱלֹהֵי^{エロ-ヒーム}「私の

主人」と読みます。恐らく「יהוה」の名をみだりに口にすることはな

らない（出20：7）からだと思います。1章は、

אלהים「神」という一般名詞。そして、2章3章は

יהוה^{エロ-ヒーム}「神」です。（モーセ五書25回 旧約44回）

יהוה
神聖四文字

新改訳は太文字で【主】と表し、新共同訳は【】なしの主です。

「神聖四文字 יהוה : 主」は旧約で 5500 回出てきます。

新約では「^{キュリオス}ΚΥΡΙΟΣ : 主」で表記します。

Hebrew訳では旧約引用の場合 יהוה ですが、他は、

^{アドナーイ} יהוה ^{アドニー} יהוה および יהוה と表記します。

使徒の働き 9 章 3 -5 節

- 3 ところが、サウロが道を進んでダマスコの近くまで来たとき、
突然、天からの光が周りを照らした。
- 4 彼は地に倒れて、自分に語りかける声を聞いた。
「サウロ、サウロ、なぜわたしを迫害するのか。」
- 5 彼が「主よ、あなたはどなたですか」と言うと、答えがあった。
「わたしは、あなたが迫害しているイエスである。」

パウロはダマスコ途上で大いなる光によってイエシュアと会います。

強烈な光が来て彼は取り扱われますが、面白い表現をしています。

「主よ、あなたはどなたですか」

「主よ」と呼びかけて「どなたですか」とはおかしくないですか？

ヘブル語で見ると「あなたは誰ですか 私の主ですか」です。

アドナーイ

つまり「私の主 **אֲדֹנָי** ですか」って聞いているのです。

「サウロ サウロ」と声を聞いたので「あなたは誰ですか 私の主ですか」と尋ねているのです。その答えが

「わたしは、あなたが迫害しているイエスである。」です。

さて、「主」とは、どのような意味なのでしょう。

それが今日の学びの一つです。

使徒の働き 2 章 36 節

神が今や主ともキリストともされたこのイエスを・・・

実際、イエシュアが「主ともキリストとも呼ばれるようになった」

のは、イエシュアが復活して昇天して神の右に着座された時です。

ペテロが説教の時に語っています。ですからそれまではイエシュアは主ともキリストとも呼ばれていないのです。

復活して昇天して神の右に着座されたのは、復活して 40 日目です。

その時、正式に「主 יהוה : 神の固有名詞・神の御名」とも

^{ハツマーシーアツハ}
「^{ハツマーシーアツハ}הַמְּשִׁיחַ מֶשִׁיחַ」とも呼ばれたと言っています。

ピリピ人への手紙 2 章 11 節

すべての舌が「^{ハツマーシーアツハ}הַמְּשִׁיחַ ^{イエス・キリスト}יֵשׁוּעַ..イエス・キリストは主です」と告白して父なる神に栄光を帰するためです。

パウロも、イエシュアが十字架に掛かってよみがえられた後、

^{ハツマーシーアツハ} ^{イエシュア}
すべての舌が^{ハツマーシーアツハ}הַמְּשִׁיחַ ^{イエシュア}יֵשׁוּעַ..は主ですと告白して父なる神に栄光を帰すると書いています。

Hebrew訳では「主」を「^{アードーン}אֲדֹנָי」あるいは「^{ハーアードーン}הָאֲדֹנָי (冠詞付き)」と訳します。

^{ハーアードーン} ^{フー} ^{ハツマーシーアツハ} ^{イエーシューア}
^{ハーアードーン}הָאֲדֹנָי ^{フー}הוּא ^{ハツマーシーアツハ}הַמְּשִׁיחַ ^{イエーシューア}יֵשׁוּעַ
「 イエス・キリスト 彼は主です。 」

ユダヤ人たちは神聖四文字 יהוה を「わたしの主人」という意味のアドナイと読んできましたので、私もユダヤ人同様、アドナイと読んでいます。 神聖四文字は4つの子音で成り立っています。

イエヴァ

ヘブル語原典にある発音表記では「יהוה」^{イェヴァ}としか読めません。

「イエフヴァー」としている人もいますし「イェヤー」の人もいますが、何と発音するのかが分からないのです。

日本語には勝手に母音記号をつけ直して「ヤーウエ YHWH」とか「エホバ」とかで読んでいますが、これが神の名前だということです。

アドナイ アニー

יהוה אני

「 わたしは主である 」

(出エジプト記 6 章 2 節)

神ご自身がモーセに「わたしは主である」と自己啓示されたので、創世記 2 章 4 節後半以降は、モーセによるものだと分かります。

「わたしは主である」と、初めてモーセに自己宣言されました。

神の名前 יהוה を宣言した背景があります。

出エジプト記 6 章 6 節

それゆえ、イスラエルの子らに言え、『わたしは【主】である。

わたしはあなたがたをエジプトの苦役から導き出す。

あなたがたを重い労働から救い出し、

伸ばされた腕と大いなるさばきによって贖う。

「**יהוה**主」という神の御名は、エジプトの苦しみから救い出して
導き贖う御名「**יהוה**主」だということです。 ですから**יהוה**
には「救い出して贖う」という意味が含まれているのです。

この名前**יהוה**が、救い出すこと、贖うこと、苦境から救い出して
元の身分や地位に回復する意味を持つことが分かります。

神である主の名前**יהוה**に贖う概念があるということです。

創世記 1 章 1 節「^{ベレーシート}**בְּרֵשִׁית**はじめに」では

「初穂によって」という意味から隠されたイエシュア（初穂）が

いました。死から最初の初穂となったイエシュアによって（1コリント 15:20）神と人とがともに住む家を創造されるのが聖書全体の主題です。ここに贖いという意味があるのです。

贖いを含んだ再創造が、神様のテーマなのだと分かります。

出エジプト記 6 章 8 節

わたしはアブラハム、イサク、ヤコブに与えると誓ったその地にあなたがたを連れて行き、そこをあなたがたの所有地として与える。
わたしは【主】である。

主は約束の地にアブラハム、イサク、ヤコブを連れて行って所有地として与える方だということです。

出エジプト記 6 章 29 節

【主】はモーセに告げられた。「わたしは【主】である。
わたしがあなたに語ることはみな、エジプトのファラオに告げよ。」

主は、必ずエジプトの王ファラオと対決する方だと分かります。

この世の王と対決される神、それが「主 יהוה」です。

言ってみれば、エジプトの王と対決される「御国の王」と言えるかもしれませんが、それはイエシュアしかいませんね。

出エジプト記 12 章 12 節

その夜、わたしはエジプトの地を巡り、人から家畜に至るまで、エジプトの地のすべての長子を打ち、またエジプトのすべての神々にさばきを下す。わたしは【主】である。

と宣言しています。

エジプトの王は、どのようなわざわいがあっても、

イスラエルを手放しません。しかし、エジプト中の初子、長子を殺されて、初めて出ていけと言いました。

エジプトをさばかれる意味が「主 יהוה」に含まれています。

主 יהוה はどのような方なのか

主 יהוה は約束を誠実に守られる方、神の民をエジプトから救い出

して約束の地カナンを嗣業の地として与える方、そして、
神の敵にさばきを下される方です。 ペテロのことばから
キリストがよみがえって神が昇天して神の右についてはじめてこの
方は主 יהוה となり、キリストとなりました。

ですから、神の名「主 יהוה」の本体はイエシュアだとわかります。
旧約では隠されていました。

神聖四文字 יהוה は象形文字

「主」はイエシュアを表していますが、贖いの啓示としても考えるこ
とができます。

十字架につけられたイエシュアの手 ^{ヤード} יָד と釘を表す ^{ヴァーヴ} וּ ,

見よ ^ヘ יָד (יָ : 隙間 (内側) から外を見よ)

十字架につけられたイエシュアの「手の釘を見よ」それが

「主 יהוה」だよということです。

視覚教育のように絵としてイメージすることが出来ますね。

「𐤀」は、再臨の啓示としてキリストの空中携拳（「𐤀」が空中に浮いている）、と「𐤁」地上再臨（「𐤁」が下まで地上までたどり着いている）を見よ「𐤀𐤁」。ヘブル語を象形文字として理解するとキリストの空中携拳と、すべての人が姿を見る地上再臨（さばき）をイメージすることができます。

空中携拳は、霊のからだに変えられて一瞬に引き上げられますので、誰も見る事はできませんが、地上再臨は、すべての者が見るのです。さばきの主として来られるので見た者はすべてさばかれるわけです。

旧約の「主𐤀𐤁𐤀」がイエシュアだとユダヤ人たちは認めていませんが、イエシュアが来てはじめて啓示しています。

ヨハネの福音書 10 章 30 節

わたしと父とは一つです。

「相互内在 同時同存」いのちの水が流れる源泉です。

だから「三」が「一」となるのです。

神聖四文字יהוהのゲマトリア

$$「י」: 10 + 「ה」: 5 + 「ו」: 6 + 「ה」: 5 = 26$$

ヘブル語の世界では、一つ一つのヘブル語が数字も表します。

主יהוהアドナイのゲマトリアは「26」

エール
神אֱלֹהִיםの頭の文字「א」は神を表現する文字です。

分解してみると・・・



$$「י」: 10 \times 2 + 「ו」: 6 = 26$$

主יהוהと神のゲマトリアは同じです。

ヘブル語はこのような見方が出来る原語です。 また、

聖書ではギリシア語のゲマトリアを使うことがあります。

例えばヨハネの福音書 21 章、

復活後に弟子たちは自分の故郷に帰って漁師をしていた時、

153 匹の魚を捕る話が出てきます。

153 の解釈として、ガリラヤ湖に生息する魚の種類が 153 種と言う人もいます。 153 が何の数かギリシア語のゲマトリアで見ていくと ギリシア語の網のゲマトリアになるのです。

「 あなたは人を漁る人になる 」とイエシュアに言われましたね。魚を捕る漁師ではなくて、人を漁るようになる。だから 153 は、人を漁る網を表す数だということです。

ト ディクトウオン
「 Τὸ δίκτυον 網 」

$$300+70+4+10+20+300+400+70+50=1224$$

$$153 \text{ 匹の魚} \times 8 \text{ (イエシュアの表象)} = 1224$$

引き網の話をしています。153 匹の話は、網が鍵語になります。

「網」にかけて語っています。そして、

「わたしを愛するか」と 3 回言われて「 わたしの羊を飼いなさい 」

と話しが進みます。 漁師に戻るのではなくて、あなたのなすべきは、
すなど
人を漁ること、福音の使命を忘れるなという話になるのです。

人を網で漁る表現が 153 だということです。

「 神である主 」

2章4節後半～3章に出てくるフレーズです。

贖いを含んだ「主」ということばが、

イスラエルの歴史と深く関係していることがわかりますよね。

本日二つ目の学び創世記2章5節に入ります。

創世記2章5節

地にはまだ、野の灌木もなく、野の草も生えていなかった。

神である【主】が、地の上に雨を降らせていなかったからである。

また、大地を耕す人もまだいなかった。

5節は「神である主」が地と天を造られた時の地の状況が記されています。2章4節後半から、天について何も記されていません。

地のことだけです。

そして5節の頭で地が出てきます。

地にはまだなかった、地に降らせていなかった、地には何もなかった
何もなされていなかったと強調されています。

三つの否定辞

「 **まだ**なかった ^{イイエ} ^{テレム} **הָיָה טָרַם** 」

「 **まだ**生えていなかった ^{イツマーハ} ^{テレム} **יִצְמַח טָרַם** 」

「 **雨を降らせてい**なかった ^{ヒムティール} ^{ロー} **הַמְטִיר לֹא** 」

「 (人が) **い**なかった ^{アイン} **אִין** 」

「 **まだ** 」という語彙は原文にはありません。

「 **大地を耕す人は**いなかった 」の方が正しい訳です。

三つの否定辞 ^{テレム} **טָרַם** ^{ロー} **לֹא** ^{アイン} **אִין** を使って

地には**まだ**野の灌木もなく、野の草も生えていなかった。

その理由は、神である主が地の上に雨を降らせていなかったから。

そして大地を耕す人もいなかったからです。

面白いですね。否定から始まっています。

消極的な表現ですが、逆に人のためにはすべて必要なアイテムです。

人は2章7節で登場です。まだ人がいないので必要がないのです。

何がなかったのかを見ていきたいと思います。

創世記 2 章 5 節 (原文)

①
ヴァーアーレツ イフイエ テレム ハッサーデ スイーアツハ ヴェホール
בְּאֲרֶץ יְהִיָּה טֶרֶם הַשָּׂדֶה שִׁיחַ | כֹּל
地には なかった まだ 野の 灌木も すべて

② (理由を表す)

③
ロー キー イツマーハ テレム ハッサーデ エーセヴ ヴェホル
לֹא יִצְמַח טֶרֶם הַשָּׂדֶה יֵעֹשֶׂב כֹּל
いなかったから 生えてなかった 野の 草も すべて

ハーアーレツ アル エローヒーム アドナイ ヒムティール
עַל-הָאָרֶץ אֱלֹהִים יְהוָה הַמְטִיר
地の上に 神である主が 雨をふらせて

④
ハーアダーマー エット ラアヴォール アイン ヴェアードーム
אֶת-הָאֲדָמָה לְעֹבֵד אִין אָדָם
大地 を 耕す 人がまだいなかった

ヴァーヴ
接続詞 **ו** で区切られた三つの文節からなっています。

① 地にはまだなかった、何がなかったのかというと、

すべての野の灌木、②すべての野の草もまだ生えていなかった。

なぜ生えていなかったかという③理由が記されています。

雨を降らせてはいなかったからです。誰が？

「神である主」が雨を降らせていなかったから どこに？

地の上に雨を降らせていないので、

野の灌木も草も生えていなかったのです。

もう一つの理由が続きます。

それは、④人がまだいなかった、大地を耕す人がまだいなかった。

ということです。「すべて」を意味する ^{コール} כֹּל とか ^{コル} כָּל とか

否定辞を伴うことで「一切なかった」ことを強調しています。

人がいないのでこのような言い方です。

人が登場すると、野の灌木も、野の草も、雨も、

そして大地を耕すことも必要になります。しかし、

人がいないのでなかったと記されています。面白い表現です。

野の灌木 ^{ハツサーデ スィーアツハ} שֵׁתִּי הַשָּׂדֶה

野の草 ^{ハツサーデ エーセブ} עֵשֶׂב הַשָּׂדֶה

ヒムティール

地の上に降らせる雨 **הַמְטִיר**

これは何を指し示しているのでしょうか。

ハッサーデ

野は **הַשָּׂדֶה**

ハーアーレツ

地は **הָאָרֶץ**

ハーアーダーム

大地は **הָאָדָמָה**

は密接な関係を持っています。

地にある大地を耕す人のために、野の草木と雨が**必要**だと示されていますが、人がいないために、すべてが繋がりません。

人がいてすべてが繋がるという書き方です。

スィーアツハ

「 灌木 **שִׁיחַ** 」

灌木は、低木を表します。 荒野に生える低木はアカシアの木です。

アカシア材は、幕屋の建造や、祭壇に必要な薪に使われます。

幕屋の材料はアカシア材です。 ですから、

灌木は、神様とのかかわりに**不可欠**です。

また、エデンの園にはいのちの木もあり、善悪の知識の木もあります。

エーツ

すべて木 **עֵץ** です。 その木は見上げる木ではなく、

人が食べる木です。 園の中央にあるいのちの木、善悪の知識の木

すべての木を人が食べるものとして神が備えます。

その他の木も人が食べるために神が園に生えさました。

善悪の知識の木に毒は入っていません。すべて食べるように設定されています。

^{エーツ}
「木 」は、普通の木ではなく「神のことば」の表象です。

「神のことばである木」を全部食べよというわけです。

これが、神のみこころです。

^{エーツ}
たましいでは「木 」を食べる意味が理解できません。

^{エーツ}
聖書は神のことばを「木 」で表しています。

さらに時代が進むと、その木が「ぶどうの木」「いちじくの木」

「オリーブの木」に変わり、神の民、イスラエルを表す象徴とな
っていきます。ここでは「灌木」で表されていて、

人がいないので、「灌木」は存在しないのです。

^{スィーアツハ}
灌木  の語源

動詞では、「じっくりと考える」

人間がじっくりと神のことを考える、黙想にふける、静かに深く考えるという意味で、瞑想用語です。

詩篇には、人が神になさった奇しいわざについて、
神の戒めやみことばについて深く考え思う、

このようなことばが^{スィーアツハ} **שׁוּט** です。灌木を食べる、木を食べるとは、
人が神のことばを深く考え思う表現なのです。

詩篇 77 篇 12 節

あなたのみわざを静かに考えます **שׁוּט**。

詩篇 77 篇 3 節 6 節

3 私は神を思い起こして嘆き、思いを潜めて **שׁוּט**

私の霊は衰え果てる。

6 私の霊は悩んで **שׁוּט** 問いかけます。(新共同訳)

じっくりミドウラーシュすれば **שׁוּט** の全貌が見えるでしょう。

エーセヴ

草 עֵשֶׂב

灌木と同様、草も「神のことば」の象徴です。

木と草は、人の食べ物として扱われています。

創世記 1 章の「種のある草」と「種のない緑の草」があり

ます。種のない草は、いのちのないモーセの教え、律法です。

人間に与えられる אֱכָלָה 食物



種のできるすべての草

עֵשֶׂב エーセヴ 草

זֶרַע 種 神の子孫

神に連なる子孫

キリストに導く

養育係のような食物

モーセの律法 幼稚な教え

罪と死の律法 肉に属する人

種：イエシュア



種の入った実のある

すべての木

פְּרִי עֵץ פֶּרִי 実のある木

実のある木

永遠のいのちをもたらす食物

キリストの律法 義の教え

いのちの御霊の律法 御霊に属する人

律法はキリストに導くための養育係のような幼稚な教え

ストイケイア (στοιχεῖα)だとパウロは語っています。(ガラテア 4:1-11)

「種の出来るすべての草」「種の入った実のあるすべての木」
は、キリストのいのちを持った教えをたとえています。ですから、
人がいなければ、草は必要ありません。

人が存在して、草が重要になります。

その木や草がないのは、神様が雨を降らせていないからだ
と理由が述べられています。

地に草や木が生えるためには雨が必要であり、不可欠であると
聖書は様々な箇所で示しています。

申命記 32 章 1-2 節
モーセの決別説教

- 1 天よ、耳を傾けよ。私は語ろう。地よ、聞け。私の口のことばを。
- 2 私のおしえは雨のように下り、私のことばは露のように滴る。
若草の上の小雨のように、青草の上の夕立ちのように。

神の教えやことばが「雨のように」「小雨のように」「霧のように」
「夕立ち」などのかたちで表されています。

雨が降ることで、木や草がいのちを持ちます。

ここでの雨は、若草と青草にいのちを与えて生かす、神の霊をたとえています。 雨は主の教え、

^{トラー}
主の言葉から出る **מורה** を生かす霊です。ですから

神のことばがあっても霊がなければ、みことばが受肉しないということ。 神のことばと神の霊は一つです。

一体とならなければ、生かすことができません。

ヨエル書 2 章 23 節 28 節

23 シオンの子らよ。あなたがたの神、【主】にあつて、楽しみ喜べ。(楽しみ喜べの語彙は預言的であり、メシア王国を示しま

す。) 主は、義のわざとして、初めの雨 (^{モーレ}**מורה** : 最初のペンテコステ) を与え かつてのように、あなたがたに大雨

(^{ゲシヨム}**גשום**) を降らせ はじめの雨と後の雨 (^{マルコーシュ}**מלקוש** :

再臨の前に降る雨) を降らせてくださる。

28 その後、わたしはすべての人にわたしの霊を注ぐ。

あなたがたの息子や娘は預言し、老人は夢を見、青年は幻を見る。

人の食べる「神のことば」が、雨となって降り注ぎ、生きるのです。雨と草の関係は密接です。

それらは、神の霊と神のことばを啓示するたとえだからです。

このような聖書の表象や、神のたとえに慣れる必要があります。

— 雨を降らせていなかったからである —

👉 大地を耕す人もまだいなかったから雨を降らせていなかったということです。

「 大地を耕す 」とはどういうことなのか

大地を耕すとはどういうことなのかを考える前に

大地は地にあります。地は天(神のみこころ)を映し出すところです。

神はこの地にこだわります。神のみこころを映し出す表現される場として、非常に重要視されるのです。

「 大地を耕す 」とは、天における神のみこころを地において行うことを表しています。

アーヴァド

耕す עֲבַד

「 神に仕える・神を礼拝する 」

2章15節では、エデンの園に人を置いて、耕し守らせる務めをさせ

ます。 「耕す ^{アーヴァド} עֲבַד 」は神に仕えるとか、神を礼拝すると同

義です。 「耕す ^{アーヴァド} עֲבַד 」は、

人が祭司として神に仕える表現の祭司用語です。

^{アーヴァド} 「耕す עֲבַד 」は、罪を犯したとしても決して途切れることなく、神が人に要求される永遠の務めです。

^{ハーアダーマー} その大地 אֶרֶץ ^{ハーアダーム} אֱדֶם を耕し、仕える人 אֱדָם が語呂合わせにな
っています。

^{ハーアダーム} 人 אֱדָם が、女性形の大地 ^{ハーアダーマー} אֶרֶץ אֱדֶם になって、
大地において人が「神に仕え、神を表現する」ことを神は願って
いるのです。 人がまだ造られていないのでそのような働きもな
かったということです。

今日のまとめ

今回は二つのことを学びました。 一つは神の名です。

エロ-ヒーム
神 **אלהים** は一般名詞です。

エロ-ヒーム アドナイ
「 神である主 **אלהים יהוה** 」の「 主 **יהוה** 」は
私たちの救いと贖いに深く関係する神の固有名詞です。

人間が罪を犯す前から「 主 **יהוה** 」が人を形造ります。

「 神である主 」が人を形造るとは、「 主 **יהוה** 」の
お名前に贖いがすでに想定されていて、

人間を創造する時点で、贖いが必要されているのです。

想定した上で、「 主 **יהוה** 」の名前を語っているわけです。

神は、天にあるシナリオで、シナリオ通りに地を実現していきます。

初めから大前提に贖いがあるのです。

創世記 1 章、「 キリストの初穂によって神と人がともに住む家を

創造する 」ための贖いがすでに想定されていたように

2 章 4 節以降の創造の記事も予め想定されているのです。

そうすると、なぜ蛇が出て来るかが理解できるようになります。

もう一つの学びは、人が形造られる前の状況でした。

神と人とのかかわりの最も重要な物が消極的に暗示されていました。

人間が造られると必要になる物です。

人と関わりを持つ必要な物すべては、否定的に書かれていました。

創世記 1 章の学びもそうであったように、

創世記 2 章—3 章に書かれている多くは、字義通りではなく、たと

えが用いられています。これは神の知恵ともいうべきものです。

イエシュアがたとえで語るのは、分かりやすくするためではなくて

人びとが「それはどういう意味ですか」と問いかけなければ、

絶対明かされない、神の知恵で語られています。

ですからその表現を、創世記 1 章の学びと同様に、2 章 3 章も

たましいではなくて、霊の中で受け取る必要があるのです。

字義通りに読むと、さばきのように、のろわれているように見えるの

ですが、霊で読むとすべて福音となってくるのです。

神の知恵は、神を求める者にのみ見出すことができるのです。

それは、「王なる祭司」という自覚のある者たちだけです。

これから、もっと目から鱗のような話が出てきます。

さらっと読み過ごせばそれまでですが、

一つ一つのことばをヘブル語で確かめると見事な設定をされる神の
奥行を感じ取ることができます。

イエシュアは御国の福音を語り、

御国のデモンストレーションをしました。

イエシュアが来ると、ヤイロの娘のように眠っていた者が起きるよ。

ラザロのように 4 日経っていてもよみがえるよ。

十字架の後で旧約の聖徒たちがよみがえるようなことが起こるよ。

というデモンストレーションをしているのです。

これも一つのたとえになっています。

コロサイ人への手紙 1 章 16 – 17 節

16 なぜなら、天と地にあるすべてのものは、見えるものも見えな

いものも、王座であれ主権であれ、支配であれ権威であれ、御子
に会って造られたからです。万物は御子によって造られ、御子の
ために造られました。

17 御子は万物に先立って存在し、万物は御子にあって成り立って
います。

詩篇 8 篇 6 節

あなたの御手のわざを人に治めさせ 万物 (^{コール}כָּל) を彼の足の下に
置かれました。

詩篇 119 篇 91 節

それらは今日もあなたの定めにしたがって堅く立っています。

万物 (^{ハツコール}כָּל) はあなたのしもべだからです。

イザヤ書 44 章 24 節

あなたを贖い、あなたを母の胎内で形造った方、【主】はこう言われ
る。「わたしは万物を造った【主】である。・・・」

